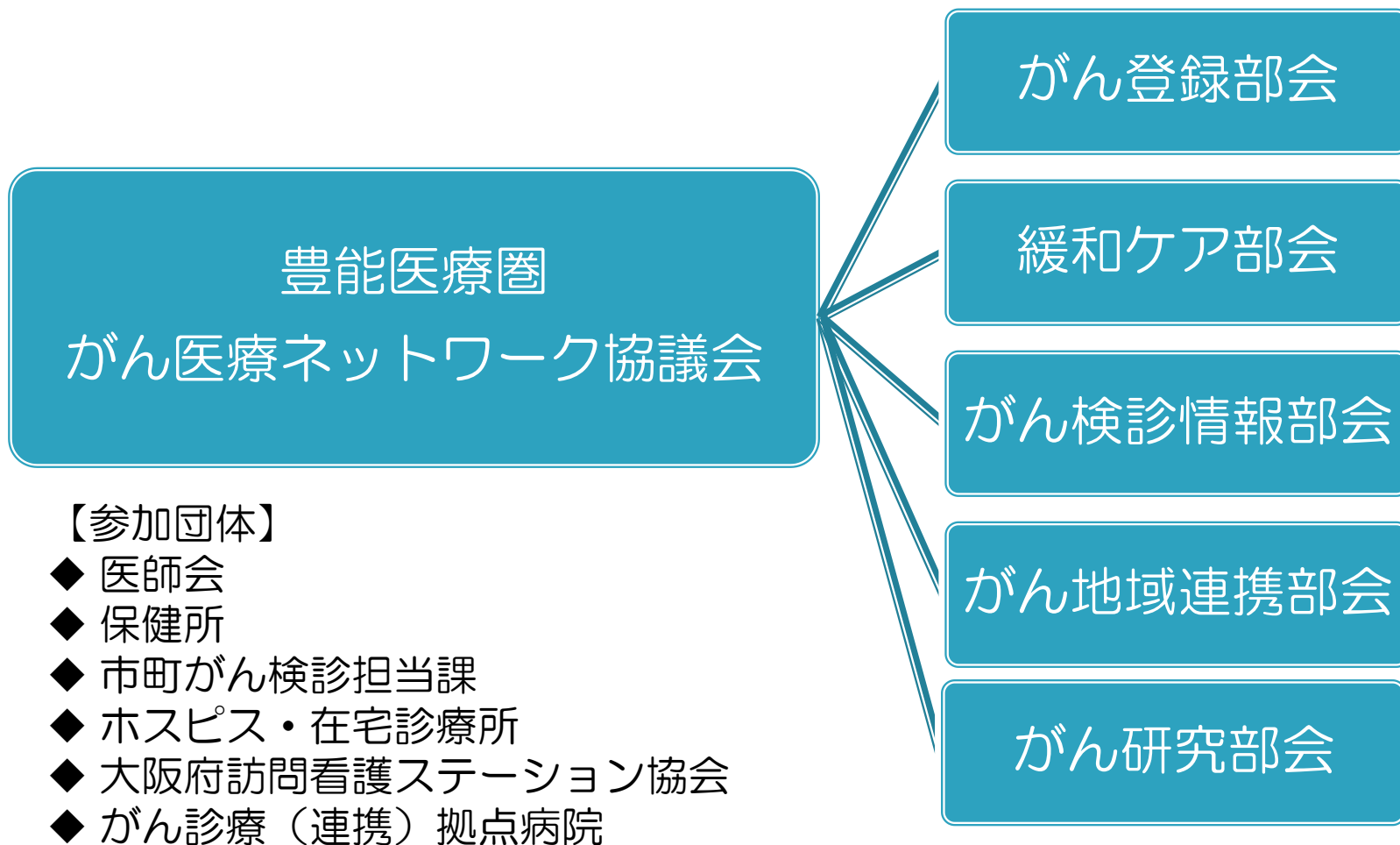


豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会
活動報告

〔令和4年（2022年）8月9日〕

市立豊中病院
大阪大学医学部附属病院

組織図



がん登録部会

【部会活動のメインテーマ】 網羅的で精度の高いがん登録の実施

【令和4年度（2022年度）活動目標】

1. 院内がん登録データを用いた現状分析

- 希少がんの院内がん登録データを用いた現状分析
今年度、大阪府がん診療連携協議会が実施予定の希少がんをテーマとした現状分析に合わせて、豊能医療圏でも現状分析を行う
- 前立腺がんの院内がん登録データを用いた現状分析
2020年、2021年の2年分の院内がん登録データから、地域、進行度や治療内容等のベンチマークを作成、自施設の登録状況の把握と豊能医療圏での前立腺がんの現状について比較し分析を行う

2. 院内がん登録の精度管理

各施設で連携、情報共有し、精度の高い院内がん登録データを構築

緩和ケア部会

【部会活動のメインテーマ】 緩和ケアの普及

【令和4年度（2022年度）活動目標】

1. 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化
 - 地域連携情報シート（リレーシート）の有効活用に向けた検討を行う
 - ・ 実際の症例でリレーシートを活用した地域連携カンファレンスを実施
 - 当該カンファレンスを通じて得た意見を部会で共有し、リレーシート様式の見直しの必要性やより有効な運用方法等について検討を行う

2. 緩和ケアの普及促進
 - 部会メーリングリストの活用
 - ・ メーリングリストを活用し、アンケートや勉強会等の情報共有を行う

3. 新型コロナウイルス感染症拡大下の緩和ケアに係る 情報交換

- 感染症拡大下で生じた変化への対応について、情報共有を行う
(コロナによる制限の緩和について等)

がん検診情報部会

【部会活動のメインテーマ】

がんに関する情報の普及、及びがん検診の受診率向上

【令和4年度（2022年度）活動目標】

1. がん教育の推進

- 児童・生徒向けがん教育出前講座への講師派遣の継続
 - ・各市町の検診担当課から教育委員会への働きかけを継続

2. がん医療公開講座の実施の方向性等について検討

- 新型コロナウイルスの感染状況の動向に応じた講座の運営方法について継続して模索していく

がん地域連携部会

【部会活動のメインテーマ】 地域連携によるがん医療の充実

【令和4年度（2022年度）活動目標】

1. 就労支援等について

- 就労支援にかかわる相談件数を増やすため、令和3年度の検討を踏まえて、圏域内で相談件数の多い施設の取り組みについて、情報を共有し、各施設での相談件数の増加を目指す。（圏域内での相談件数を増やす。）

- ① 就労支援相談の多い施設の取り組みについて情報共有
- ② 就労支援相談の件数把握方法について情報共有

2. がん相談支援センターの院外での認知状況について

- 各相談支援センターの院外患者の利用状況から、一般住民や他施設利用のがん患者への効果的な周知が必要と考えられる。このため、各施設のホームページへの各相談支援センターの一覧を掲載するなど、圏域内で連携して、認知（活用）の向上を図る手法を検討、実施する

- ① 他施設の情報ホームページに掲載可能か確認する。
- ② ①を踏まえた掲載方法について検討

がん研究部会

(1)小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、2019年に厚労省認定小児がん連携病院、大阪認定府小児がん拠点病院となり、小児がん拠点病院を含む大阪府内の小児がん診療施設と連携し、小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。

特に骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫については大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科と連携して治療にあたっている。

血液・悪性腫瘍やその他の疾患に対する造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。

2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性血液・悪性腫瘍の治療に取り組んでいる。

AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存については、生殖医療センターと連携し、治療提供を行っている。

長期フォローアップ外来を通じて、一生を通じて質の高い生活を送ることができるように医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、チャイルドライフスペシャリストなどの多職種による支援を行っている。

がん研究部会

(2)骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間27件（2021年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁、骨髄バンク、臍帯血のすべてに対応しており、骨髄バンク及び臍帯血移植が3/4を占めている。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2021年は8件施行している。

(3)がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキューール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している

がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受け、令和2年3月に引き続き指定を受けた。
 - ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を開始し、令和元年9月末にて受付を終了した。（200例予定、199例登録）
 - ・令和元年9月中旬より保険適用となった2種類のがん遺伝子パネル検査の受付を開始し、令和3年8月、新たに保険適用となったがん遺伝子パネル検査（FoundationOne Liquid CDx）を同年9月から受付を開始した。（令和元年：96件、令和2年：224件、令和3年：255件、令和4年5/12時点：73件）
 - ・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的薬治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も協力医療機関として承認され、受付を開始している。
 - ・令和元年9月にがんゲノム医療拠点病院が、全国に33施設指定された。当院は令和4年5月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国3病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（全国9病院、うち大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。
- （協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院
【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

がん研究部会

(4)先進医療の推進

- 以下の先進医療を現在実施中である **(R4.5.1)**

1. テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
2. 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）

(5)人材育成

- **がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）**

109名が在学中

（薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など）